
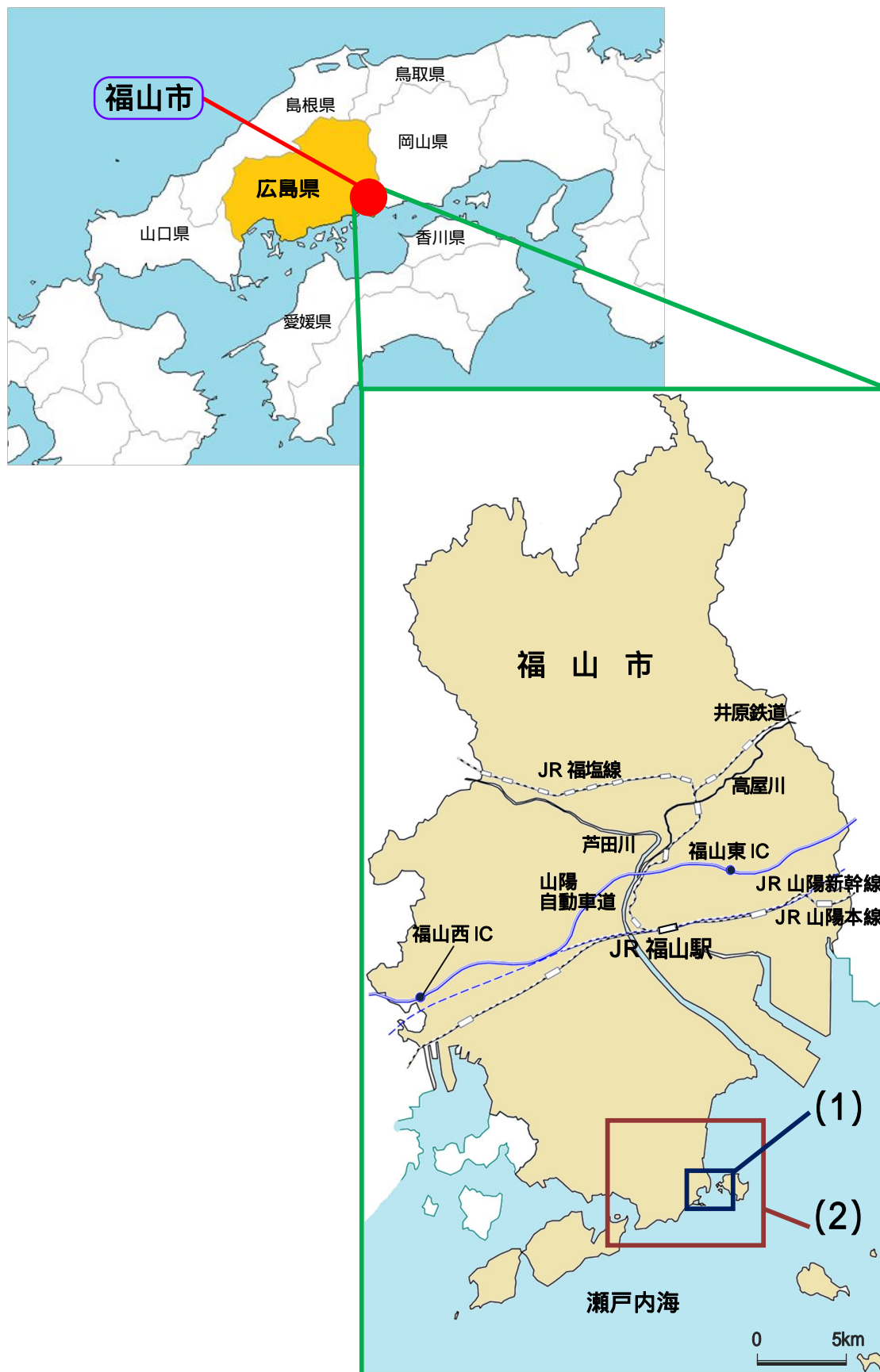
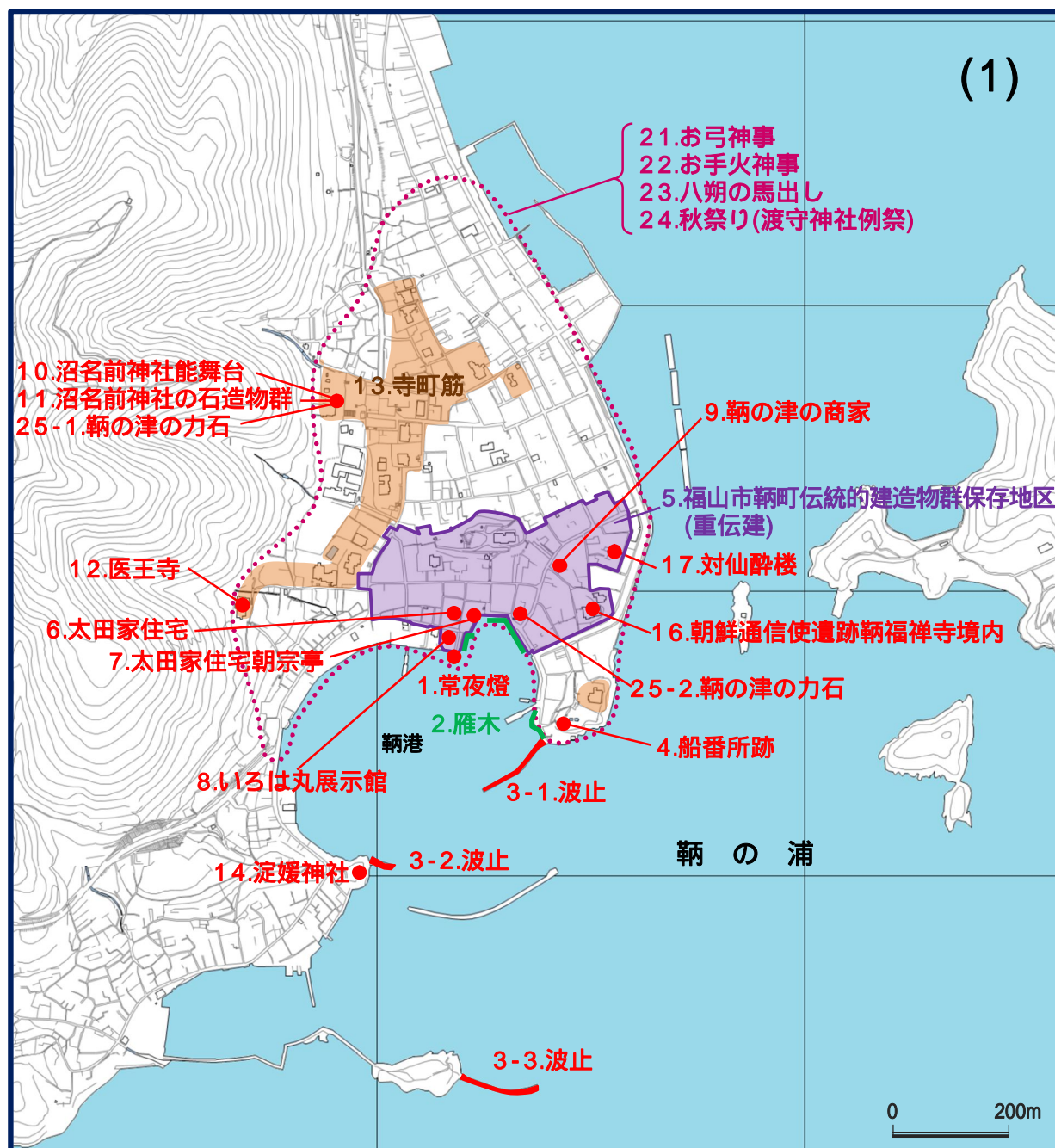


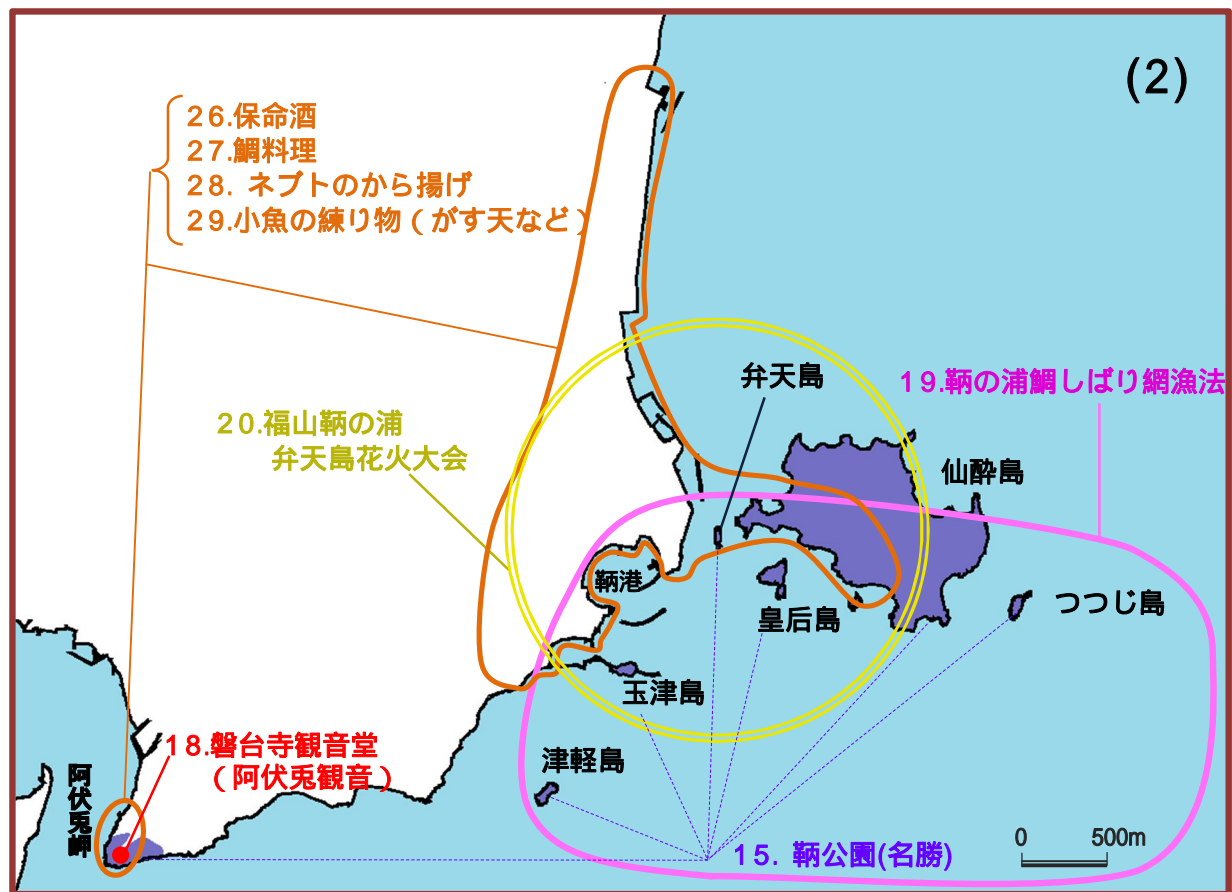
申請者	福山市	タイプ	<div>地域型</div> / シリアル型 <div>A</div> <div>B</div> <div>C</div> <div>D</div> <div>E</div>				
タイトル							
<p style="text-align: center;"> <small>ゆうなぎ</small> 瀬戸の夕凧が包む 国内随一の近世港町 <small>とも うら</small> ～ セピア色の港町に日常が溶け込む鞆の浦 ～ </p>							
ストーリーの概要（ 2 0 0 字程度 ）							
<p>夕暮れ時になると灯りのともる石造りの「<small>じょうやとう</small>常夜燈」は、港をめざす船と港の人々を 160 年間見守ってきた鞆の浦のシンボル。</p> <p>「<small>がんぎ</small>雁木」と呼ばれる瀬戸内海の干満に合わせて見え隠れする石段が、常夜燈の<small>たもと</small>袂から円形劇場のように港を包み、その先端には大波を阻む石積みの防波堤「<small>はと</small>波止」が横たわる。</p> <p>瀬戸内の多島美に囲まれた鞆の浦は、これら江戸期の港湾施設がまとまって現存する国内唯一の港町。潮待ちの港として繁栄を極めた頃の豪商の屋敷や小さな町家がひしめく町並みと人々の暮らしの中に、近世港町の伝統文化が息づいている。</p>							
							
担当者連絡先							
担当者氏名	広島県福山市教育委員会管理部文化財課 檀上 浩二 ・ 村上 梢						
電 話	084-928-1278	FAX	084-928-1736				
E-mail	bunkazai@city.fukuyama.hiroshima.jp						
住 所	〒720-8501 広島県福山市東桜町 3 番 5 号						

市町村の位置図（地図等）



構成文化財の位置図（地図等）





ストーリー

近世随一の常夜燈

鞆の浦の「常夜燈」は港に現存する江戸時代のものとして日本最大級の大きさを誇る。水平線のその先を見渡すよううず高く積み重ねられた石は、ときを経て風合いを増し、絶妙な反りをみせる笠と宝珠が織りなすたたずまいは唯一無二の存在感を放つ。そのむかし、航海の目印となった高さ 10mを超える大きな常夜燈はいまも変わらず町のシンボルとして、そこに住む人々を守りつづけ、また訪れる人々を惹きつける。夕暮れ時に常夜燈へ灯りがともると、^{くれない}「紅」がかった空へ伸びるその姿が影絵のように浮かびあがり、港町の穏やかでゆったりとした時が流れているのを感じる。それが鞆の浦の、常夜燈の魅力なのだ。

最大にして唯一の近世港湾施設

常夜燈の^{たもと} 袂 から海に向かって階段のように並んでいるのが、船着場として大きな役割を果たした「^{がんぎ}雁木」だ。全長約 150m、最大 24 段もの石段がまるで円形劇場のように見える雁木は、最大約 4mにおよぶ潮の満ち引きに関係なく荷揚げができる優れものである。この積み上げられた雁木から莫大な商いの物資と人々が往来し、鞆の浦は港町としての栄華を積み上げた。ひととき腰を下ろせば、石段が一段、また一段と見え隠れし、潮の満ち引きを実感できる。港の出入口で海に突き出て穏やかなカーブを描く石積みは「^{はと}波止」と呼ばれる防波堤で、「常夜燈」や「雁木」と並び、国内最大級。これらに加え、港に出入りする船を見張った「^{ふなばし}船番所跡」や、船の修理を行った「^{たてばあと}焚場跡」など、近世港湾に必要とされた 5 つの施設が揃っているのはいまや鞆の浦だけとなった。

瀬戸内海の中央に位置する鞆の浦は、東西から潮が流れ込んでどまり、そして引いていく特異な立地にあることから、多くの人々がこの地で潮を待った歴史を持ち、「^{しあま}潮待ち」の港としてその名を日本中に轟かせた。現代とは違い、潮流を利用して航海していた時代、流通や移動において潮の流れは何より重要で、日本国内にある多くの港のなかでも、鞆の浦は「潮待ち」として最も恵まれ、多くの文化、学問、技術、物資、情報が集まった。



江戸時代から変わらない町のシンボル「常夜燈」



これだけの「雁木」が残る港は鞆の浦だけ



鞆の浦を守るように港を包み込む「波止」



空から見た鞆の浦

「潮待ち」が築いた鞆の浦の町並み

常夜燈の前には物資を積み上げる「荷揚げ場」がある。「荷揚げ場」は、いまもむかしも遠来や地元の人々が出会い憩う格好の交流広場だ。荷揚げした物資を保管していた白壁の大きな蔵が面するその広場から、海を背にして路地に向くと、鞆の浦きっての豪商の屋敷や酒蔵があり、サイコロ目のナマコ壁や古い船板を使った壁など、洒落た意匠を随所に見ることができる。迷路のような細い路地をさらに進むと、波打つように流麗なリズムを刻む家々の屋根に目を奪われる。

町並みの北側には、移動式として使われた能舞台や先端に鳥がとまっているような鳥居がある沼名前神社など、個性豊かな神社仏閣が連なっているのも鞆の浦の特徴だ。「袖触れ合うも他生の縁」というならば、すれ違う人にみなご縁を感じてしまうような狭い路地を抜け、小高い丘から港を見下ろすと、海に囲まれた鞆の浦の全体像、そしてその美しさを改めて感じることができる。

多島美が引き寄せた国際的な彩り

穏やかな海に大小の島々が響き合うように浮かぶ鞆の浦は、朝鮮通信使や琉球使節、オランダ商館長など、海外からの多くの客人を魅了した。朝鮮通信使にいたっては、迎賓館であった福禅寺対潮楼から望む海島が魅せる眺めを「日東第一形勝（日本で一番美しい景色）」と絶賛し、多くの漢詩を残した。対潮楼の目前に横たわる仙酔島や弁天島を見ながら、船で西へ進めば、海へせり出した断崖絶壁にそびえ建つ朱塗りの阿伏兔観音が姿を現し、青く輝く瀬戸内の多島美にアクセントを添える。

継承される鞆ならではの祭りと特産品

景勝に囲まれた歴史ある町並みのなかに、人情味豊かな鞆の浦の住民が港町の伝統文化を息づかせている。数多くの船で鯛を取り囲み一網打尽とする伝統漁法の「鯛網」や、子どもの成長を願い大きな木馬を引きまわす全国でも珍しい祭り「八朔の馬出し」、さらに海上安全や無病息災を祈願し重さ 200 kgもある巨大な三体の松明の火の粉が飛び散る勇壮な火祭り「お手火神事」など、鞆の浦では四季折々の伝統行事が盛大に行われ、自然と歴史に恵まれた港町の舞台を格別に輝かせる。また江戸時代、力比べに使った重さ 200 kgを超える「力石」の現物見学もおもしろい。

鞆の浦で生まれた薬味酒「保命酒」や、名産の鯛や小魚「ねぶと」を使った料理や珍味、練り物なども鞆の浦ならではの楽しみだ。

鞆の浦には、常夜燈をはじめ日本の近世に繁栄した港のたたずまいがそのまま残されている。鞆の浦の魅力はこの地に住む人々の日々の営みの中で育まれ、伝えられてきた。鞆の浦は、いまに生きる「近世港町」として、またそれを体感できる極めて稀な場所として、訪れる人の心を惹きつけて離さない。



荷揚げ場と白壁の大きな蔵



廻船業で繁栄を極めた鞆の浦の町並み



福禅寺対潮楼からの景色



断崖絶壁にそびえる阿伏兔観音



子どもの成長を願う「八朔の馬出し」



現在も4軒で醸造されている「保命酒」

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (1)	指定等の状況 (2)	ストーリーの中の位置づけ (3)	文化財の所在地 (4)
1	じょうやとう 常夜燈	未指定	航海の目印として造られた国内最大級の石造りの常夜燈。江戸時代から今も変わらず港を見守り続けている鞆の浦のシンボル。	
2	がんぎ 雁木	未指定	潮の干満に関係なく船を着けられ、荷揚げができるようになっている。全長約 150 m、最大 24 段もの石階段が円形劇場のように続く。石造りとしては国内最大級の規模。	
3	はと 波止	未指定	江戸時代、高波被害から港湾を守るために鞆港を包み込むように造られた石積みの防波堤。穏やかなカーブを長く描く。石造りとしては国内最大級の規模で、今も江戸時代の波止が 3 基ある。	
4	ふなばんしよあと 船番所跡	未指定	遠見番所とも呼ばれ、港に出入りする船を見張る役目を持つと同時に、安全も管理・監督していた。江戸時代、波止の付け根の高台に石垣を築き、その上に船番所が建てられた。現在は石垣、石階段部分が残る。	
5	福山市鞆町 伝統的建造物群保存地区 ふもとちやう	国重伝建	江戸時代中期までに整えられた地割の上に、廻船業で繁栄を極めた江戸時代からの伝統的な町家や寺社、石垣等の石造物、港湾施設などが一体となって良好に残る。狭い間口の敷地に庇が連なる町家や、広い敷地に建つ豪商の商家、細い路地の向こうに海が見える景観など、近世港町の町並みを色濃く残す地域。	
6	太田家住宅	国重文 (建造物)	江戸時代から明治にかけて保命酒の醸造販売で栄えた鞆を代表する豪商の遺構。広大な敷地に主屋のほか、保命酒蔵など当時の構えを良く残す。洒落たナマコ壁など意匠を随所に見ることができる。	
7	太田家住宅 朝宗亭 ちやうそうてい	国重文 (建造物)	常夜燈前にある荷揚げ場の隣へ位置し、港に面して長い石垣・白壁が続く。鞆の浦きっての豪商の屋敷の一つで、海外から琉球使節も迎えた大規模な町家。通りを挟んで建つ太田家住宅の別邸。	

8	いろは丸展示館	国登録	港町として繁栄した鞆の往時を偲ばせる江戸時代末期の大きな白壁の「浜蔵」。現在は、鞆沖で沈んだ坂本龍馬率いる海援隊の蒸気船「いろは丸」の足跡を証す資料館。	
9	^{とち} 鞆の津の商家	市重文 (建造物)	間口が狭く通り土間が残る典型的な江戸時代の商家。主屋の隣には蔵が引付き並ぶ。	
10	^{ぬなくま} 沼名前神社能舞台	国重文 (建造物)	豊臣秀吉遺愛の能舞台といわれる。鞆の商人たちが盛大な演能会を催した。国内唯一の移動式能舞台（現在は固定）。	
11	^{ぬなくま} 沼名前神社の石造物群	未指定	海上安全の参拝者が多く、境内には港にまつわる商人や遊女などが寄進した玉垣、燈籠や鳥が止まっているような鳥居などの石造物が膨大に奉納され、近世港町をよく偲べる。	
12	^{いおうじ} 医王寺	未指定	港の後山の中腹に建つことから、鞆港に入ってくる船の目印になってきた。鞆港の全景が一望に見渡せ、境内にある鐘楼の鐘の音が港まで響く。	
13	寺町筋	未指定	江戸時代に港の周辺部に並んで神社仏閣が整備され、面影を今日に伝えている。町角に現れる個性豊かな寺社群は圧巻。この寺の多くに朝鮮通信使の使節団は、分散宿泊した。	
14	^{よどひめ} 淀媛神社	未指定	鞆港西側の高台に位置し、港の入口を守護するようにそびえ立ち、 ^{ひら} 平の産土神として祭られる。屋根の上にある X 字状の ^{うずすながみ} 干木が、海から際立って見える。ここから港や島々の景勝を望める。	
15	鞆公園	国名勝	瀬戸内海の中でもとりわけ美しい鞆周辺が 1925 年に名勝指定。青く輝く穏やかな海と島々の美しい稜線は、朝鮮通信使など海外からの客人をも魅了した。この名勝は各所の高台からも楽しめる。	
16	朝鮮通信使遺跡 ^{ふくぜんし} 鞆福禅寺境内	国史跡	朝鮮通信使の高官の迎賓館・常宿。客殿からの眺めを朝鮮通信使は「日東第一形勝」（日本で一番美しい景色）と称賛した。	
17	^{たいせんすいろう} 対仙酔楼	未指定	楼閣の 2 階では仙酔島や弁天島の景色を眺めながら来客を饗応した。頼山陽が「対仙酔楼」と命名し、ここからの眺めを「 ^{さんしすいめい} 山紫水明」と称えた。	

18	ばんだいじ かんのおんどう 磐台寺観音堂 (阿伏兔観音)	国重文 (建造物)	海にせりだした高い岩上に建てられた朱塗りの観音堂は、鞆の浦へ向かう船の目印になっていた。ここからの眺めは青く輝く海や美しい島々を大パノラマで満喫できる。海上安全を祈願する場所であったが、今は安産祈願で有名。朝鮮通信使も立ち寄った。	
19	鞆の浦鯛しばり網漁法 あみ	市無形民俗	江戸時代から鞆に伝わる伝統漁法。鯛の群れを 6 隻の船団で取り囲み一網打尽とする勇壮な漁法。国内で唯一継承されている。	
20	福山鞆の浦弁天島花火大会	未指定	江戸時代から弁天島・仙酔島などの名勝を舞台に続く花火まつり。天保 2 (1831) 年の中村家日記にも、「弁才天御祭礼花火」等が記される。	
21	お弓神事 ゆみ	市無形民俗	年頭にあたり悪鬼を射払ってその年の無病息災を祈る祭儀。当番町は揃って高唱しながら町中を練り歩く。	
22	お手火神事 てび	市無形民俗	巨大な松明の火の粉が飛び散る勇壮な火祭り。主に沼名前神社を舞台に行われる。海上安全や無病息災の願いを込め、町全体を火で清める。	
23	はっさく うまだ 八朔の馬出し	未指定	江戸時代から続く伝統行事で、一時途絶えたが、今では全国でも鞆のみ開催。子どもたちの成長を町中で祝う。鞆商人の見栄をみるような大きな木馬に子どもたちが乗り、町並みをまわる。	
24	秋祭り (渡守神社例祭) わたす	未指定	沼名前神社の境内にある渡守神社の秋の例祭。「海路平安」を司る神様が祀られている。見事なチョーサイ (山車) を町中へ引きまわし、町並みを格別に輝かせる。	
25	鞆の津の力石 ちからいし	市有形民俗	港で荷役作業に従事した仲使が祭礼の場などで力比べをした石。200 kg を超えるものもあり、石には重さや持ち上げた人の名前が刻まれ、沼名前神社や住吉神社に奉納されている。	
26	ほうめいしゅ 保命酒	未指定	江戸時代到大坂 (阪) からやってきた漢方医の中村吉兵衛が生薬をつけ込んで造ったといわれる漢方薬味酒。福山藩の重要な産物として藩の財政を潤し、ペリー来航の際に供された。現在は 4 軒で醸造されている。	

27	鯛料理	未指定	鯛網で知られる鞆の浦ならではの料理。刺身や浜焼きのほか、豪快な鯛のかぶと煮や祝い事に欠かせない鯛そうめんなど多彩。	
28	ネブトのから揚げ	未指定	瀬戸内海で捕れる小魚のから揚げ。正式名称は ^{てんじくたい} 天竺鯛。	
29	小魚の練り物 (がす天など)	未指定	瀬戸内海の中央で育まれた鯛や小魚といった新鮮な魚を加工した練り物。	

- (1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。
- (2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること(例：国史跡、国重文(工芸品)、県史跡、県有形、市無形等)。
- (3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること(単に文化財の説明にならないように注意すること)。
- (4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること(複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。

構成文化財の写真一覧

1 常夜燈^{じょうやとう}



1 常夜燈^{じょうやとう}



3 波止^{はと}



2 雁木^{がんき}



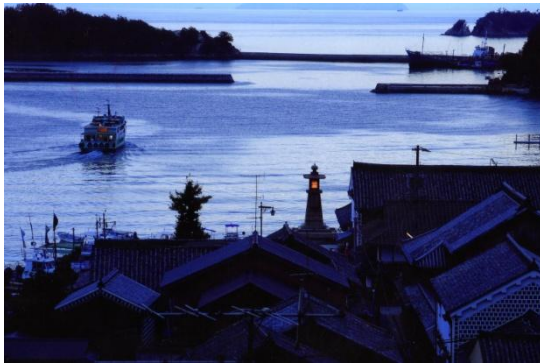
4 船番所跡^{ふなばんしよあと}



5 福山市^{ともちよう}鞆町伝統的建造物群保存地区



5 福山市^{ともちよう}鞆町伝統的建造物群保存地区



7 太田家住宅^{ちようそうてい}朝宗亭



6 太田家住宅



8 いろは丸展示館



9 軀の津の商家



12 いおうじ
医王寺



10 ぬなくま
沼名前神社能舞台



13 寺町筋



11 ぬなくま
沼名前神社の石造物群



14 よどひめ
淀媛神社



15 とも 鞆公園



16 朝鮮通信使遺跡鞆福禪寺境内 ふくぜんじ



17 たいせんすいろう 対仙酔楼



18 ぼんだいじ かんのおんどう あぶと かんのおん 磐台寺観音堂 (阿伏兎観音)



19 鮎の浦鯛しほり^{あみ}網漁法



20 福山鮎の浦弁天島花火大会



22 お手火^{てび}神事



21 お弓^{ゆみ}神事



23 八朔^{はつきく}の馬出し^{うまだし}



24 秋祭り ^{わたす}(渡守神社例祭)



27 鯛料理



25 軀の津の力石 ^{ちからいし}



28 ネブトのから揚げ



26 保命酒 ^{ほうめいしゅ}



29 小魚の練り物 (がす天など)



日本遺産を通じた地域活性化計画

(1) 将来像(ビジョン)

福山市では、現在、鞆の浦の再生・活性化に取り組むための指針として「鞆まちづくりビジョン」を策定するため、地域住民とのワークショップを開催しながら、地域住民と行政との協働により、平成29年度中の策定に向けて取り組んでいます。また、平成28年度に策定した「第2次福山市観光振興ビジョン」の中で、鞆の浦を本市の代表する観光資源の一つとして位置づけ、重点的な観光振興に取り組んでいます。

日本遺産を活用する事業においても、鞆まちづくりビジョンや福山市観光振興ビジョンとの整合をとり、「暮らし」と「観光」の調和のとれた観光地づくりを推進していきます。

鞆の浦は、常夜燈、雁木、波止など江戸時代からの港湾施設が今も現役で活躍し、潮待ちの港として賑わった頃の豪商の屋敷や町家、寺社なども数多く見ることができます。また、地域に伝わる四季折々の伝統行事や祭事など無形の文化財も、地域の暮らしの中で大切に守られ、受け継がれています。

日本遺産のストーリーを通じて、こうした鞆の浦の歴史的・文化的な魅力を国内外へ発信し、()『持続可能な地域づくりのモデルとなるまち』、()『未来に歴史・文化が継承されるまち』、()『観光客に滞在拠点として選ばれるまち』をめざします。

持続可能な地域づくりのモデルとなるまち

これまで住民主体で担っていた伝統行事や文化資源の保護といった地域のまちづくり活動を、地域外の人にも公開・参加してもらい、地域内外の様々な主体が協働することで、まちづくりと観光振興の調和を図り、持続可能な地域づくりのモデルとなるまちをめざします。

未来に歴史・文化が継承されるまち

若い世代や子どもたちが積極的に郷土の歴史・文化について学び、郷土への誇りと愛着が醸成されるよう、地域の団体・企業などのサポートのもと、世代間交流を進めます。さらに、この取組を通じて人材育成のサイクルを構築し、未来に歴史・文化が継承されるまちをめざします。

観光客に滞在拠点として選ばれるまち

歴史的な町並みや地域のコミュニティを生かし、地域の暮らしや文化を感じられる滞在型の観光地づくりを促進するため、効果的な情報発信により、外国人をはじめとした観光客が拠点として選び、「行ってみたい」「また行きたい」「住んでみたい」と思えるまちをめざします。

(2) 地域活性化のための取組の概要

持続可能な地域づくりのモデルとなるまち

持続可能な組織体制の整備

地域に根ざしたまちづくりを推進するため、地域団体、企業、行政による「(仮称)日本遺産鞆の浦活性化協議会」を設立します。組織の中心的な役割を担う熱意ある民間人リーダーを育成し、持続可能な組織体制づくりを行うことで、まちづくりの効率化・継続化を図ります。

観光の事業化

地域活性化事業の原資を継続的に確保するため、大学と連携した観光振興のビジネスモデル研究や観光客が地域の祭り・イベントに参加できる新たな仕組みづくり、ボランティアガイドの育成・事業化など地域に収益をもたらす事業を推進し、地域の活力向上につなげます。

未来に歴史・文化が継承されるまち

次世代への伝統文化の継承

鞆の浦の祭り、伝統行事、食文化などを継承するため、未指定文化財調査の実施や日本遺産認定記念シンポジウムの開催、日本遺産認定を記念したおもてなしツールの作成により、地域の伝統文化を再認識し、住民の地域への誇りや愛着を醸成します。

まちづくりを担う人材の育成

地域住民が自分の住むまちに積極的に関わられるようにするため、町内の小・中学生がまちづくりについて提案し、地域の住民、団体、企業がその実現に向けて取り組める場を設けることで、世代を超えた交流による人材育成サイクルを構築します。

観光客に滞在拠点として選ばれるまち

新たな魅力の発掘やターゲットに合わせた商品開発及び情報発信

観光客に選ばれる観光地づくりのため、地域住民が気づいていない魅力をリサーチする潜在力調査を実施し、ターゲットに合わせたツアー商品の開発、新たな観光イベントの実施やホームページ、SNS等による国内外への情報発信により、観光資源の魅力向上とともに観光客数の増加を図ります。

外国人観光客が快適に滞在できる環境整備

外国人観光客にストレスなく快適に過ごしてもらえるように、多言語での案内看板の設置、WEBサイトでのゲストハウスの紹介、外国語ガイドの育成などの環境整備をすることで、外国人観光客の満足度の向上やリピーターの増加を図ります。

上記の取組とともに、国や県の事業を活用した町並み修理・修景事業や道路港湾整備事業等により、生活と観光が共存する調和のとれた一体的なまちづくりをめざします。また、近隣の日本遺産(尾道市、倉敷市)をはじめとした瀬戸内圏域の関係団体との連携を行い、お互いの観光資源の強みを活かした広域的な観光施策を展開します。

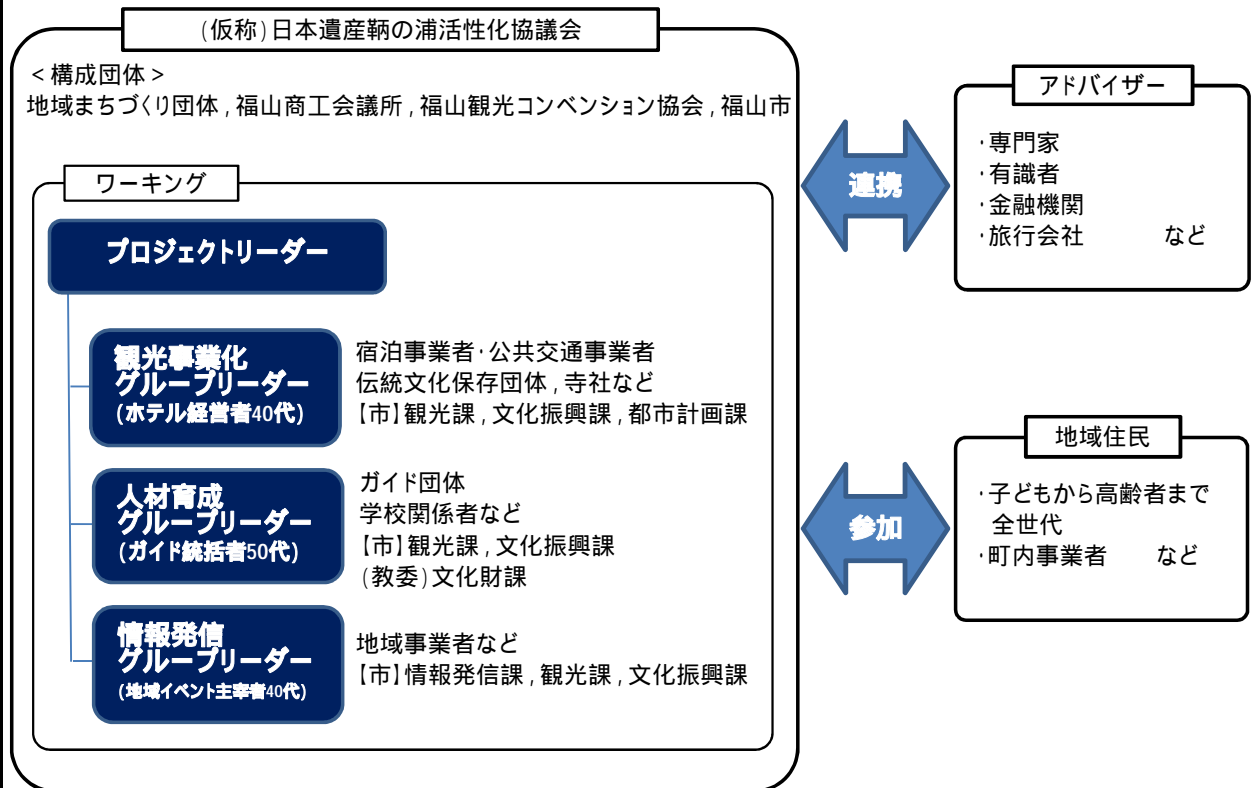
(3) 自立的・継続的な取組

- ・まちづくりを担う人材（民間人のプロジェクトリーダー）を3年間で育成し，持続可能な組織体制を構築します。
- ・地元の大学と連携し，若者の柔軟な発想で持続可能なビジネスモデルを研究するとともに事業化をめざします。
- ・未指定文化財の調査により，新たな価値や魅力を見出し，観光素材に活用していきます。
- ・観光ニーズや課題を浮き彫りにするため潜在力調査を行い，ツアーの商品化をめざします。
- ・ガイドを募集・育成し，収益事業につなげます。

1年目	2～3年目	4～6年目
地域リーダーの選定・育成	地域リーダーによる事業実施	地域リーダーによる自走化
大学連携による持続可能な ビジネスモデルの研究	研究会開催	事業実施
未指定文化財の調査	未指定文化財の調査	観光素材に活用
潜在力調査	モニターツアーによる仮説・実証	ツアーの商品化
ガイドの募集・育成	ガイドの収益事業化	ガイドの収益事業化

(4) 実施体制

- ・協議会の名称：
(仮称) 日本遺産の浦活性化協議会
- ・構成団体：
地域まちづくり団体，地域の観光や産品に関わる事業者
福山商工会議所，福山観光コンベンション協会
福山市（情報発信課，企画政策課，観光課，文化振興課，都市計画課，（教委）文化財課）
- ・協議会の体制
協議会は，「観光事業化」，「人材育成」，「情報発信」の部門別ワーキングを設け，各部門に経験を有するグループリーダーを配置します。また，当面の間は，ワーキング全体を統括するプロジェクトリーダーに，地域性を理解している専門家を配置し，実効的な組織運営を図りながら後継者を育成します。
事業推進に当たっては，各分野に精通したアドバイザーと連携し戦略的な事業展開を図るとともに，地域住民の参加も得ながら，行政及びグループリーダー等が定期的に連絡会議を開き，円滑な運営に努めます。



(5) 地域活性化計画における目標と期待される効果

定量的評価：別紙 のとおり

期待される効果：	<p>持続可能な地域づくりのモデルとなるまち 地域に密着した民間人リーダーの育成による事業の効率化・継続化 交流人口の増加による地域活力の向上</p> <p>未来に歴史・文化が継承されるまち 地域の伝統文化の再認識による住民の郷土への誇りと愛着の醸成 世代を超えた交流による人材育成サイクルの構築</p> <p>観光客に滞在拠点として選ばれるまち 新たな商品開発やイベント実施による観光資源の魅力向上 環境整備による外国人観光客の満足度の向上</p>
----------	---

(6) 日本遺産魅力発信推進事業

別紙 のとおり

補助金額：	平成30年度：	49,400千円	平成31年度：	31,500千円	平成32年度：	14,800千円
-------	---------	----------	---------	----------	---------	----------

(7) その他事業

別紙 のとおり

（５）地域活性化計画における目標と期待される効果

設定目標：	日本遺産を活用した集客・活性化			
計画評価指標：	観光客入込み数（具体的な指標は次のとおり）			
具体的な指標：	鞆の浦の総観光客数			
目標値：	平成 28 年	2,151 千人	平成 35 年	2,452 千人
設定根拠：	設定根拠：第2次福山市観光振興ビジョン（平成28年度策定，目標年次平成33年）の数値目標（110％）を踏まえ推計			
設定目標：	日本遺産を活用した集客・活性化			
計画評価指標：	宿泊者数（具体的な指標は次のとおり）			
具体的な指標：	福山市の宿泊者数			
目標値：	平成 28 年	795 千人	平成 35 年	907 千人
設定根拠：	設定根拠：第2次福山市観光振興ビジョン（平成28年度策定，目標年次平成33年）の数値目標（110％）を踏まえ推計			
設定目標：	日本遺産を活用した集客・活性化			
計画評価指標：	観光客入込み数（具体的な指標は次のとおり）			
具体的な指標：	鞆の浦の外国人観光客数			
目標値：	平成 28 年	26,000 人	平成 35 年	62,400 人
設定根拠：	設定根拠：第2次福山市観光振興ビジョン（平成28年度策定，目標年次平成33年）の数値目標（200％）を踏まえ推計			
設定目標：	日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化			
計画評価指標：	地域の文化に誇りを感じる住民の割合（具体的な指標は次のとおり）			
具体的な指標：	住民意識調査 福山市に愛着や誇りを「とても感じる」，「やや感じる」市民の割合			
目標値：	平成 27 年度	70.0 %	平成 35 年度	80.0 %
設定根拠：	第5次福山市総合計画策定（平成28年度）に向けた市民アンケート調査結果			
設定目標：	日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化			
計画評価指標：	その他（具体的な指標は次のとおり）			
具体的な指標：	まちづくり提案会議の参画児童・生徒数			
目標値：	平成 29 年度	0 人	平成 35 年度	120 人
設定根拠：	3年間で100人，以後毎年20人の追加を見込む。			
設定目標：	日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立			
計画評価指標：	日本遺産への協力団体数（具体的な指標は次のとおり）			
具体的な指標：	参画事業者数			
目標値：	平成 29 年度	0 団体	平成 35 年度	30 団体
設定根拠：	3年間で20団体，以後毎年2～3団体の追加を見込む。			

設定目標：	日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立		
計画評価指標：	日本遺産関連で開発された商品・サービス数（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	開発商品（ツアー含む），サービス件数		
目標値：	平成 29 年度	0 件	平成 35 年度 30 件
設定根拠：	3年間で15件，以後毎年3～4件の伸びで開発していく。		
設定目標：	日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立		
計画評価指標：	その他（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	ガイド育成講座修了者の活動者数		
目標値：	平成 29 年度	0 人	平成 35 年度 30 人
設定根拠：	平成31年度に10人程度を基準とし毎年3～4人増加させる。		
設定目標：			
計画評価指標：	（リストから選択してください。）（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：			
目標値：	平成 29 年度	0	平成 35 年度 0
設定根拠：			
設定目標：			
計画評価指標：	（リストから選択してください。）（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：			
目標値：	平成 29 年度	0	平成 35 年度 0
設定根拠：			

(6) 日本遺産魅力発信推進事業

事業	「日本遺産の浦紹介サイト」(多言語)開設事業				
事業区分	情報発信		事業期間	平成 30 年度 ~ 平成 31 年度	
補助金額	平成30年度: 3,000千円		平成31年度: 7,000千円	平成32年度: 0千円	
(積算)	・国内外ターゲット別のコンテンツを取捨選択し、タグ付け整理しそれ毎のモデルルートづくりを行う。 3,000千円×一式		・専用ホームページ開設(日・英・仏・中国簡体字・中国繁体字・ハングル) 7,000千円×一式		
事業概要	日本遺産の浦を紹介する専用ホームページを開設する。の浦の港湾施設や町並み、ゆかりの人物など普遍的な情報の掲載とともに時宜を捉えたトピックを紹介するSNS機能を備えたホームページを作成する。また、潜在力調査を踏まえて決定するが現状想定として英語・仏語・中国語(簡体字・繁体字)・ハングルの5言語などターゲットが合致する国の多言語化を行う。				
評価指標区分	ホームページ閲覧数(PV数)			(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標	HPサイト閲覧数(福山市観光振興ビジョンの数値目標(110%)を踏まえた推計によるの浦観光客数2,366千人×50% 118万回)				
目標値	平成 29 年度 0 万回		平成 35 年度 118 万回		
事業	総合情報発信事業(映像制作)				
事業区分	情報発信		事業期間	平成 30 年度 ~ 平成 31 年度	
補助金額	平成30年度: 10,000千円		平成31年度: 3,000千円	平成32年度: 0千円	
(積算)	・映像制作(日・英・仏・中・韓)及びYouTubeやSNSでの映像を活用した情報発信事業 10,000千円×一式		・映像修正と広告料(分析を踏まえたターゲット地で放映プロモーション) 3,000千円×一式		
事業概要	の浦の魅力伝える映像を制作しPRする。せとうちDMO等のデータに基づき5言語で多言語化を行う。2年目以降は、ホームページやYouTubeへ情報発信資産として活用掲載するとともに、潜在力調査を踏まえて、SNS広告等を活用し海外(米国・仏国・台湾を想定)に向け情報発信する。また、首都圏及び大阪駅・広島駅の効果的な場所で、ビジョン広告を実施し、認知度向上及び来訪促進を図る。				
評価指標区分	その他			(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標	の浦の認知度				
目標値	平成 27 年度 31.7 %		平成 35 年度 50 %		
事業	国外情報発信事業				
事業区分	情報発信		事業期間	平成 30 年度 ~ 平成 32 年度	
補助金額	平成30年度: 3,000千円		平成31年度: 0千円	平成32年度: 5,000千円	
(積算)	・ジャパンガイドでの情報発信プロモーション(英・仏) 3,000千円×一式		・インフルエンサー招聘事業 2,500千円×2カ国(米国・仏国)		
事業概要	潜在力調査と並行してその効果の検証と認知度向上のため、現在ターゲット想定される欧米圏の旅行者からアクセスの多いWEBサイト「ジャパンガイド」において、タイアップ記事やバナー掲載など情報発信を行いアクセスやビューの数を分析に生かす。また3年目はターゲット調査を踏まえて米国と仏国などメインターゲット客層からインフルエンサーを招聘し、日本遺産の浦を国外へ発信・拡散する。				
評価指標区分	外国人入込み数			(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標	の浦の外国人観光客数				
目標値	平成 28 年 26,000 人		平成 35 年 62,400 人		

事業	地域の担い手育成事業					
事業区分	人材育成			事業期間	平成 30 年度 ~ 平成 32 年度	
補助金額	平成30年度： 700千円		平成31年度： 700千円		平成32年度： 300千円	
(積算)	・講師謝礼 220千円 ・旅費 380千円 ・情報発信講習会 100千円		・講師謝礼 220千円 ・旅費 380千円 ・情報発信講習会 100千円		・講師謝礼 150千円 ・旅費 150千円	
事業概要	自走可能な組織体制整備に向け、外部講師を招聘し、グループリーダーのスキルアップを図る。日本遺産という文化資源を活かした事業創出や変化の早い情報発信の効果的な手法、データ分析とその結果を踏まえたPDCAの実践方法を学ぶ。また先進地等と連携できる関係づくりを行う。					
評価指標区分	コーディネーター等育成講座修了者による活動件数				(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標	修了者の活動件数					
目標値	平成 28 年度 0 件		平成 35 年度 60 件			
事業	日本遺産鞆の浦 ガイド養成事業					
事業区分	人材育成			事業期間	平成 30 年度 ~ 平成 31 年度	
補助金額	平成30年度： 4,300千円		平成31年度： 450千円		平成32年度： 0千円	
(積算)	・講師謝礼 500千円 ・旅費 200千円 ・事務費 600千円 ・ガイド用研修テキスト作成 (日・英・仏・中・ハングル) 3,000千円×一式		・講師謝礼 300千円 ・旅費 100千円 ・事務費 50千円			
事業概要	現ガイドのスキルアップと新人ガイド及び外国語ガイドを育成するため、講習会や、実地研修等を行う。また、日本遺産鞆の浦の構成文化財やモデルコース等をまとめたガイド用研修テキスト本を作成する。潜在力調査の結果を踏まえるが想定5言語程度(英・仏・中国繁体字・中国簡体字・ハングル)の対応方法の違いや言い回しなどをテキスト化することで、外国語ガイドにとってガイド知識だけでなく、言葉の言い回しなども参考となる実用的な研修テキストを作成する。					
評価指標区分	ガイド育成講座修了者の後年度活動者数				(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標	新人ガイド講習会受講者の内、活動可能登録者5人/年とする。					
目標値	平成 29 年度 0 人		平成 35 年度 20 人			
事業	鞆の浦学園 まちづくり提案会議					
事業区分	人材育成			事業期間	平成 32 年度 ~ 平成 32 年度	
補助金額	平成30年度： 0千円		平成31年度： 0千円		平成32年度： 2,000千円	
(積算)					提案会議推進業務 2,000千円×一式 ・計画設計 ・資料等作成 ・実践マニュアル作成	
事業概要	平成31年度に新設される鞆の浦学園(義務教育学校)の前期課程、後期課程の2学年にまちづくりを考え提案する機会をつくり、地域住民・団体・企業などとともに提案の実現に向け取り組むシステムをつくる。この取組を継続実施できるよう実践マニュアルを作成する。					
評価指標区分	その他				(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標	まちづくり提案から実現された件数					
目標値	平成 29 年度 0 件		平成 35 年度 5 件			

事業	近世港湾施設を活かしたシネマと食の魅力発信事業					
事業区分	普及啓発		事業期間	平成 30 年度 ~ 平成 31 年度		
補助金額	平成30年度：	3,000千円	平成31年度：	7,000千円	平成32年度：	0千円
(積算)	・ イベント開催準備 プロデューサー委託費 3,000千円×一式		・ プロデュース&ディレクション 1,000千円 ・ ダイニング関連 1,500千円 ・ シネマ関連 1,500千円 ・ 会場設備 1,000千円 ・ PRツール制作など 1,000千円 ・ メディア招待等 1,000千円			
事業概要	数々の映画やドラマの舞台になってきた鞆の浦の魅力を引き出すため、初年度に実施準備として、観光サービスや産品創出等の付加価値付けを行う。2年目に構成文化財である雁木（海面へ続く石階段）を鑑賞席とし、海上にスクリーンを設置して映画を上映する。併せて、常夜燈周辺で地元食材を使ったメニューを提供し、話題性による誘客を促進するとともに、地元民間プレーヤーとの連携により新たなビジネスにつなげる。					
評価指標区分	日本遺産の認知度			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標	鞆の浦の認知度					
目標値	平成 27 年度	31.7 %	平成 35 年度	50 %		
事業	潜在力調査及び実証ツアー実施事業					
事業区分	普及啓発		事業期間	平成 30 年度 ~ 平成 31 年度		
補助金額	平成30年度：	5,000千円	平成31年度：	2,000千円	平成32年度：	0千円
(積算)	・ 観光ニーズ調査・分析・報告 5,000千円×一式		・ 戦略研究・モニターツアー企画・報告 2,000千円×一式			
事業概要	せとうちDMOの調査データ等を活用し戦略と仮説を立て、地域住民が気付いていない地域の魅力についてリサーチする。2年目には調査結果を実証するため、仮説を基にターゲットに応じたコース設定によりモニターツアー（メディア同行）を実施し、ツアーの商品化につなげる。					
評価指標区分	その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標	ツアーの商品化件数					
目標値	平成 29 年度	0 件	平成 35 年度	10 件		
事業	大学連携による持続可能なビジネスモデル研究事業					
事業区分	普及啓発		事業期間	平成 30 年度 ~ 平成 32 年度		
補助金額	平成30年度：	1,000千円	平成31年度：	1,000千円	平成32年度：	1,000千円
(積算)	・ 大学教授選出等体制検討 1,000千円×一式		・ 大学教授学生地域住民研究会開催（文化財活用） 1,000千円×一式		・ 大学教授学生地域住民研究会開催（伝統行事） 1,000千円×一式	
事業概要	福山市立大学と連携して、文化財等を守りながら地域事業者が収益を上げる方法やまちづくりへの外部有料参加、クラウドファンด์による参画収益化など組織が自走化するための調査研究を行い、持続可能なビジネスが成り立つモデルづくりを行う。産学連携の学識と若者の柔軟な発想により日本遺産の自走化を示せるようにする。					
評価指標区分	日本遺産に関する商品開発数			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標	持続可能なビジネスモデル発案数					
目標値	平成 29 年度	0 件	平成 35 年度	10 件		

事業	日本遺産認定記念シンポジウム事業					
事業区分	普及啓発		事業期間	平成 30 年度 ~ 平成 30 年度		
補助金額	平成30年度	5,100千円	平成31年度	0千円	平成32年度	0千円
(積算)	・企画運営委託費 3,000千円 ・会場費 1,000千円 ・謝金 800千円 ・旅費 300千円					
事業概要	日本遺産として認定された地域資源の価値や魅力を共有するためのシンポジウムを開催する。まちづくり団体，小学校のふるさと学習の取組や他の認定地域の先進的な活動団体による事例発表を行い，身近な資源の活用方法を学ぶ機会を作るとともに，地域内への日本遺産の理解を深め，本ストーリーでの地域活性化を担う外部パートナーとの関係づくりを実現させる。					
評価指標区分	日本遺産の認知度			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標	住民意識調査 福山市に愛着や誇りを「とても感じる」，「やや感じる」市民の割合					
目標値	平成 27 年度	70 %	平成 35 年度	80 %		

事業	港湾施設ライトアップ事業					
事業区分	普及啓発		事業期間	平成 32 年度 ~ 平成 32 年度		
補助金額	平成30年度	0千円	平成31年度	0千円	平成32年度	5,000千円
(積算)					・プロデュース&ディレクション 1,000千円 ・デザイン 1,000千円 ・会場設備 2,000千円 ・PRツール制作など 500千円 ・メディア招待交通費など 500千円	
事業概要	鞆の浦のシンボルである常夜燈から雁木に沿ってライトアップし，幻想的な夜の港を演出する。港湾施設の魅力を高め宿泊者数の増加を図る。また，ここで地元事業者やまちづくり団体と企画するイベントでの演出効果にも活用できるものとする。					
評価指標区分	その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標	福山市の宿泊者数					
目標値	平成 28 年	795 千人	平成 35 年	907 千人		

事業	伝統の観光鯛網タイアップ事業					
事業区分	普及啓発		事業期間	平成 30 年度 ~ 平成 30 年度		
補助金額	平成30年度	500千円	平成31年度	0千円	平成32年度	0千円
(積算)	・大漁旗 6枚 200千円 ・法被 50着 300千円					
事業概要	平成27年に福山市無形民俗文化財に指定された「鯛しぼり網漁法」で鯛を獲る伝統の観光鯛網と日本遺産を相互に発信するため，日本遺産登録の「大漁旗」や「法被」などを制作し，漁船や観覧船に設置するとともに，船内で日本遺産についてのアナウンスを実施し，観覧者に告知する。					
評価指標区分	日本遺産の認知度			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標	鞆の浦の認知度					
目標値	平成 27 年度	31.7 %	平成 35 年度	50 %		

事業	食メニュー開発事業					
事業区分	普及啓発		事業期間	平成 30 年度 ~ 平成 31 年度		
補助金額	平成30年度	3,000千円	平成31年度	350千円	平成32年度	0千円
(積算)	・食の魅力づくり検討会及び次年度提案に向けたアドバイス業務委託 3,000千円×一式		・事務費 50千円 ・商品化に向けた試食会（材料代等） 100千円 ・ポスター・チラシ作成 100千円 ・広告費（地元情報誌・WEB） 100千円			
事業概要	地域の魅力として食の分野が相対的に低い課題がある。地域事業者向けにストーリーにあった食の開発や近隣地域から食の魅力を提供する事業者の創出などを図る。そのため、未指定文化財（食文化）調査をしつつ、外部専門家の力を借りて食の魅力開発の底力をつけ、鞆の浦の宿泊施設や飲食店を中心に構成文化財である魚を使った新たな「食」メニューを開発・商品化し、食による地域活性化を図る。					
評価指標区分	その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標	販売店舗数（市内）					
目標値	平成 29 年度	0 店	平成 35 年度	20 店		
事業	日本遺産鞆の浦 文化財カード作成事業					
事業区分	普及啓発		事業期間	平成 30 年度 ~ 平成 30 年度		
補助金額	平成30年度	600千円	平成31年度	0千円	平成32年度	0千円
(積算)	・カード作成費 400千円 ・チラシ作成費 100千円 ・PR幟旗作成費 100千円					
事業概要	鞆の浦土産として定着している絵葉書の強みを生かして、ストーリーと構成文化財の写真（または絵）と説明文をカード化し、カードに関連した文化財施設各所での配布や祭り開催時に限定で配付することで蒐集意欲を誘発し、持ち帰っての口コミにも生かし、日本遺産鞆の浦の認知度向上と鞆の浦で周遊・リピーターの増加を促進する。					
評価指標区分	日本遺産の認知度			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標	鞆の浦の認知度					
目標値	平成 27 年度	31.7 %	平成 35 年度	50 %		
事業	鞆の浦おもてなし機運醸成事業					
事業区分	普及啓発		事業期間	平成 30 年度 ~ 平成 30 年度		
補助金額	平成30年度	1,000千円	平成31年度	0千円	平成32年度	0千円
(積算)	・幟 60枚 60千円 ・バナー 20枚 140千円 ・ステッカー 200枚 100千円 ・タペストリー100セット100千円 ・卓上のぼり 100セット100千円					
事業概要	おもてなしの機運醸成を図るため、また地域に対し日本遺産に認定された出来るだけ早いタイミングで手渡せるものを作ることで地域内PRするツールを作成し、地域住民に広く周知する。鞆の浦の観光施設を中心にツールを配布し、地域全体での一体感を創出するとともに観光客へのPRを図る。					
評価指標区分	日本遺産の認知度			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標	鞆の浦の認知度					
目標値	平成 27 年度	31.7 %	平成 35 年度	50 %		

事業	日本遺産体験イベント事業				
事業区分：	普及啓発		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 30 年度	
補助金額：	平成30年度： 1,000千円		平成31年度：	0千円	
(積算)	・講師謝礼 150千円				
	・旅費 150千円				
	・会場費 300千円				
	・PRツール 400千円				
事業概要：	日本遺産認定について地域住民がまずよく知ることが重要であるため、地域向けに参加したくなる構成を工夫した体験イベントを行う。また、事業継続できるように構成文化財になっている史跡や名所を活用した体験イベント（お茶会）を開催することにより、日本遺産のストーリーと文化財を活用したイベント実施のノウハウを取得する。				
評価指標区分：	日本遺産の認知度			(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	福山市に愛着や誇りを「とても感じる」，「やや感じる」市民の割合				
目標値：	平成 27 年度 70 %		平成 35 年度 80 %		
事業	鞆の浦未指定文化財調査事業				
事業区分：	調査研究		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 32 年度	
補助金額：	平成30年度： 2,000千円		平成31年度：	1,000千円	
(積算)	・未指定文化財の調査（食文化） 1,000千円		・テキスト編集・印刷 20P・300冊 500千円×2種類（食文化・チョーサイ）		平成32年度： 1,500千円
	・未指定文化財の調査（チョーサイ） 1,000千円				・未指定文化財の調査（石造物） 1,000千円
					・テキスト編集・印刷 20P・300冊 500千円（石造物）
事業概要：	未指定文化財（食文化（鞆の魚を使った料理や珍味），秋祭りのチョーサイ（大きな山車），寺町筋の石造物の調査を実施し，日本遺産のストーリーの構成要素を明確化し，新たな観光コンテンツ創出やガイド研修用資料に活用する。				
評価指標区分：	その他			(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	鞆の浦の総観光客数				
目標値：	平成 28 年 2,151 千人		平成 35 年 2,452 千人		
事業	日本遺産紹介拠点施設の整備				
事業区分：	公開活用のための整備		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 31 年度	
補助金額：	平成30年度： 3,800千円		平成31年度：	9,000千円	
(積算)	・設計委託料 2,000千円		・工事費 9,000千円×一式		平成32年度： 0千円
	・パネル作成設置費 180千円×10枚 1,800千円				
事業概要：	市営渡船場の一部を改修し，地元住民と観光客の交流・休憩場所及び展示室に整備する。鞆の浦の近世港湾施設を撮影した写真などを大型パネルにし，歴史的価値や魅力を説明文（日・英）とともに展示する。				
評価指標区分：	その他			(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	市営渡船利用者数				
目標値：	平成 28 年度 137,585 人		平成 35 年度 150,000 人		
事業	日本遺産構成文化財 案内看板・説明板等整備事業				
事業区分：	公開活用のための整備		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 30 年度	
補助金額：	平成30年度： 2,400千円		平成31年度：	0千円	
(積算)	・説明板 20枚 1,400千円				平成32年度： 0千円
	・案内看板（大）（周辺地域） 1,000千円				
事業概要：	構成文化財の説明板を日本語と英語で作成し，英語圏以外の外国人観光客向けに仏語・中国語（繁体字）の情報が得られるスマートフォンアプリのQRコードを説明板に添付する。また駅やバス停，駐車場など周辺地域に日本遺産鞆の浦の魅力を紹介する案内看板（大）を製作設置する。				
評価指標区分：	その他			(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	鞆の浦の外国人観光客数				
目標値：	平成 28 年 26,000 人		平成 35 年 62,400 人		

（7）その他事業

事業	町並み修理・修景事業			
機関・団体	文化庁	：	福山市	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要	鞆町伝統的建造物群保存地区内の建造物の外観を修理・修景する者に補助を行う。			
事業	重要文化財太田家住宅朝宗亭保存修理事業			
機関・団体	文化庁	：	福山市	事業期間：平成 31 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要	重要文化財である太田家住宅朝宗亭の修理を行い、年に数回公開活用する。			
事業	福禅寺保存整備事業			
機関・団体	文化庁	：	福山市	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 32 年度
事業概要	史跡の保存・活用のための管理施設を整備し、福禅寺が所有する歴史的資料を一般公開する。			
事業	町並み保存拠点施設整備事業			
機関・団体	文化庁以外の省庁	：	福山市	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 32 年度
事業概要	町並み保存の推進，伝統・文化の継承発信や地域の活性化を目的とした拠点施設を整備する。			
事業	道路港湾整備事業			
機関・団体	都道府県	：	広島県	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要	交通処理・高潮対策として狹隘箇所道路の拡幅，無電柱化，防潮堤などを整備する。			
事業	治山事業			
機関・団体	都道府県	：	広島県	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 30 年度
事業概要	鞆小学校背後の2渓流において，山地災害の防止と被害軽減を目的として谷止工を整備する。			
事業	防災広場整備事業			
機関・団体	文化庁以外の省庁	：	福山市	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 31 年度
事業概要	伝建地区内の防災施設や必要な設備の格納場所としての広場を整備する。			
事業	鞆の浦を核とした観光プロモーション事業			
機関・団体	自主事業	：	福山市	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 30 年度
事業概要	首都圏のF1層をメインターゲットとし，その情報拡散力を活用した観光プロモーションを実施する。			
事業	日本遺産認定リーフレット作成配布			
機関・団体	自主事業	：	福山市	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 30 年度
事業概要	日本遺産認定の市民向け周知と近世港湾施設の認知度向上のためリーフレットを作成配布する。			
事業	公共下水道整備事業			
機関・団体	自主事業	：	福山市	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要	鞆町内の下水道を整備し，生活環境の向上を図る。			
事業	文化芸術による子ども育成事業			
機関・団体	自主事業	：	福山市	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要	市内南部の小学生の授業へ箏曲家と能楽師を派遣する授業を行い文化の伝承に取り組む。			

事業	地域資源を活用した魅力発信事業			
機関・団体	自主事業	：	福山市	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要	地場産品を活かし郷土の食を観光に活かすためのプロジェクトを推進する。			
事業	イベント支援			
機関・団体	自主事業	：	福山市	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要	地元住民実行委員会組織で開催するイベントを支援する。			
事業	鞆の浦学園 新教科「鞆学（とものがく）」推進事業			
機関・団体	自主事業	：	福山市教育委員会	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要	新たに設置する義務教育学校で地域を素材とした課題発見・解決学習に取り組む。			
事業	広域連携による観光振興に向けた事業（せとうち旅情実行委員会）			
機関・団体	自主事業	：	福山市・尾道市・倉敷市	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要	3市がＪＲ西日本と各観光協会と連携し，Facebookによる魅力発信や周遊旅行商品化などを実施する。			
事業	鞆の浦～尾道航路助成事業			
機関・団体	自主事業	：	福山市・尾道市	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要	鞆の浦から阿伏兎観音を經由し日本遺産の尾道まで運航する船舶事業者を支援する。			

